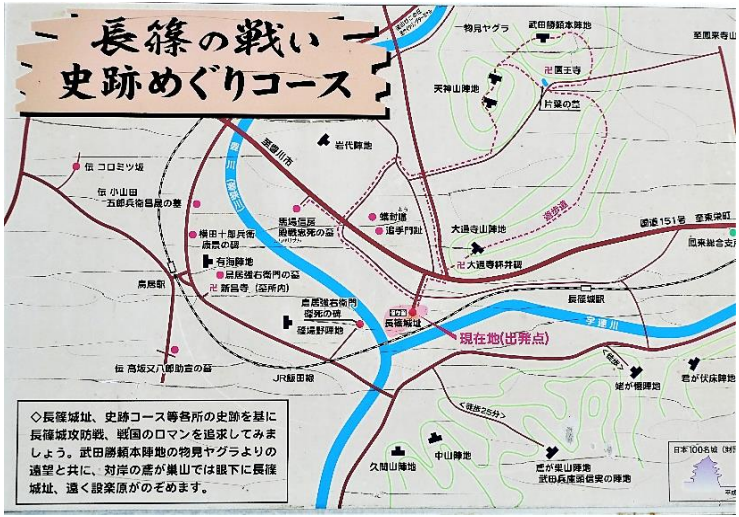
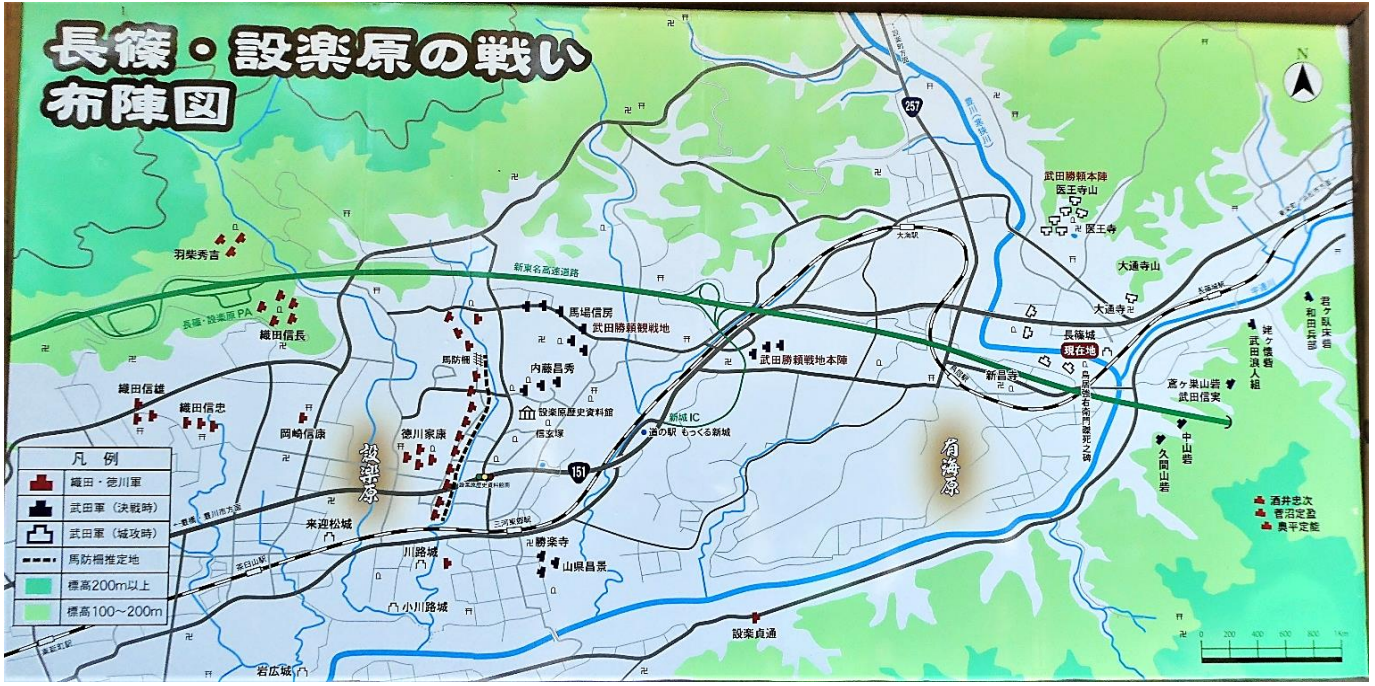


# 長篠城

## 写真集



**国指定史跡 長篠城跡**  
National Historic Site: Ruins of Nagashino Castle

昭和4年12月17日指定

長篠城は三河国(愛知県東部)と遠江国(静岡県西部)との国境に近い場所に存在していた。東三河地域の平野部と山間部との境目であり、交通の要所でもあったこの地は、永禄3年(1560)の今川義元の死後、多川氏・武田氏・徳川氏が争奪戦を繰り返したが、まさに勢力の境目でもあった。長篠城はこの地を支配するうえで大切な場所であったことから、天正3年(1575)5月に長篠城を築いて長篠・設楽原の戦いが起こった。

ここでは15世紀末から16世紀初頭に城主の住まいとして築かれた城が、16世紀後半以降に丸堀出や現存する「積矢掛け」の土塁等を有する。土塁と堀を巧みに配置した軍事的な城に改修されたことが発掘調査で判明しています。また、宇津川、崖地など自然地形をうまく利用した「後醍醐寺」景観は、訪ねに促した長篠城を代表する見どころにもなっています。

**勢力変遷図**

今川方 武田方 徳川方

永禄5年(1562)頃 元禄3年(1672)頃 天正3年(1575)5月

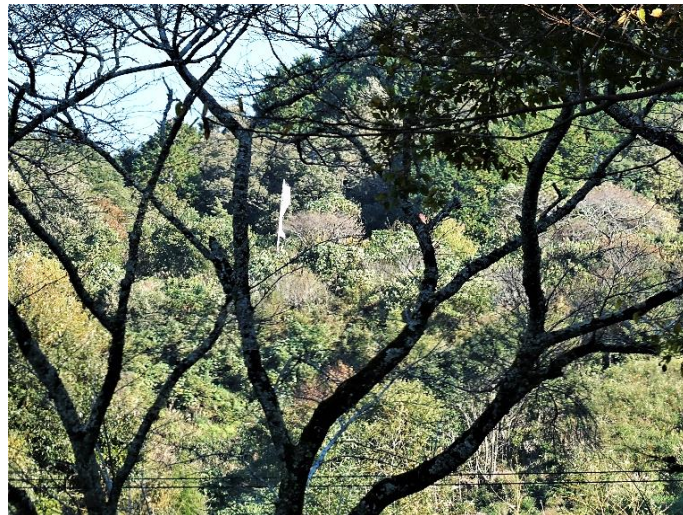
### 歴代長篠城主

城主	年代	説明
菅沼元成	1508 (永正5)	・今川氏親の部将として、ここに城を築く。それより長篠菅沼氏とよばれた。
俊則 元直		・奥平氏 作手村 ・山家三方衆 田峯菅沼氏 設楽町田峯 ・長篠菅沼氏 鳳来町長篠
貞景	1561 (永禄4) 1569 (〃12)	・今川義元死後、松平元康(家康)に属する。 ・徳川家康にしたがい掛川城(今川氏・静岡岡県)を攻め、貞景は天王山で戦死。
正貞	1571 (元龜2) 1572 (〃3) 1573 (〃4) (天正元年)	・天野景貴(静岡岡県犬居) 秋山信友(長野県伊那)に攻められて降参、武田信玄に属する。 ・武田軍山県昌景に属し三方原の戦いに参加。 ・信玄死去(4.12) 徳川家康長篠城奪回(8月) 正貞は徳川へ内応の疑いで信州小諸(長野県)に入牢。(奥平氏は武田軍より離脱、徳川氏へ走る。)
徳川氏城番 (信) 奥平貞昌	(天正3) 1576 (〃4)	・家康、奥平貞昌を城主に任命(2月) 城兵500人、武田勝頼(1万5千人) 長篠城包囲攻撃設楽原決戦(5.21) ・長篠城をとりこわし、新城市へ移築。





かん さ ざわ  
**寒狭川**  
こよ かわ  
別名・滝川・岩代川



←橋子をつけた綱をほる 磯死の碑  
強右衛門はりつけ、このあたり

現在地 ● ●大手門  
二の丸 ●強右衛門ここで停まる

現牛 飯田 橋川 丸 二の丸

## 磯に散る 烈士 鳥居強右衛門

五月十四日、武田軍は総攻撃をしかけた。城中の食料はあと四、五日分だけ。その夜、鳥居強右衛門は、徳川家康へ救援を依頼する使者として長篠城を抜けた。梅雨の時、増水の寒狭川へおりて豊川をくだると四Km。

十五日朝かんぼう山で脱出成功の狼煙をあげ、岡崎へ走った。(長篠ー岡崎は50Km)岡崎には援軍の織田信長も到着していた。家康、そして信長の前で城の危急を訴えまわりの人々も感動した。使命を果たして、休養をすめられたが、彼はすぐ引き返した。

十六日の朝、再びかんぼう山で「援軍きたる」の狼煙三発。そして長篠城の対岸まできたが敵重に警戒する武田軍に捕えられた。

武田軍から「援軍はこない城を開け、武田軍は厚くもてなす」と呼ばれるよう説得されて長篠城二の丸近くに立った。(この時城は本丸と二の丸だけ残る)しかし「援軍はくる。この眼で見えてきた、あと二、三日、堅固に守れ」とさげんだので、対岸の篠場野の地で磯にされた。

強右衛門その時三十六才

十八日、織田、徳川三万八千の軍は設楽原に到着して陣をしいた。







1990 (平成2年)11月15日、アメリカ、テキサス州 サンアントニオ市にあるアラモ砦跡で、志賀重昂建碑75年記念式が行なわれ、その席で、城跡にそびえるライブ・オークの種子が長篠城址へ贈られた。

種子 (どんぐり) は愛知県林業センターで播種・育苗、1992 (平成4年) 4月24日、記念式をもって植樹され、その記念碑 (堅木植樹碑) も建てられた。

これらの事業は新城ロータリークラブが主催した。

- ライブ・オーク (live oak)  
カシ、カシワなど的一种、アメリカ東南部大西洋沿岸、メキシコ湾岸地域に分布する。材は強く重い。
- アラモの戦い (1836 - 日本 天保7年)  
テキサス国サンアントニオ町のアラモ教会所を砦としてたてこもったトリス以下150人は、包囲するメキシコ軍5千人と戦った。砦の士官ポナムは、囲みをぬけ出て救援を求めたが、友軍もまた苦戦しており、ポナムは砦に戻り戦った。しかし13日にわたる攻防の末、砦軍は全滅した。テキサス独立の捨て石となったこの勇士たちの物語は、誇り高く伝えられている。
- 志賀重昂 1863 (文久3) - 1927 (昭和2) 年  
号は<sup>じんぜん</sup>剗川、父は岡崎藩士・札幌農学校卒業・地理学者・評論家・早稲田大学教授其の他  
「アラモの戦い」が日本の「長篠の戦い」と大変似ていることに感激して1914 (大正3) 年、両国の勇士をたたえる詩文を刻んだ石碑を、アラモ砦跡に献納した。

その詩文中の一句 ~意気豈有東西別~  
(意気は<sup>あに</sup>豈<sup>あに</sup>東西<sup>あに</sup>の別<sup>あに</sup>有らんや)

久遠宮良子女王「御手植の松」  
この黒松は、久遠宮良子女王殿下が大正七年(一九一八)三月十七日、父邦彦王、母幌子妃の三人で設楽原決戦場視察の後、長篠城址を視察し、御台臨記念として植えた松である。当時の記録によれば、三人は城址で桑園になつていた本丸に散在する焼き米を拾い、鳥居強右衛門が脱出した場所に立ち往時を追懐していたとある。良子女王殿下の服装は、この時のお召列車の車掌であった浦野金蔵氏の記録によると「矢がすりの和服」であったという。  
新城市教育委員会



長篠城石碑

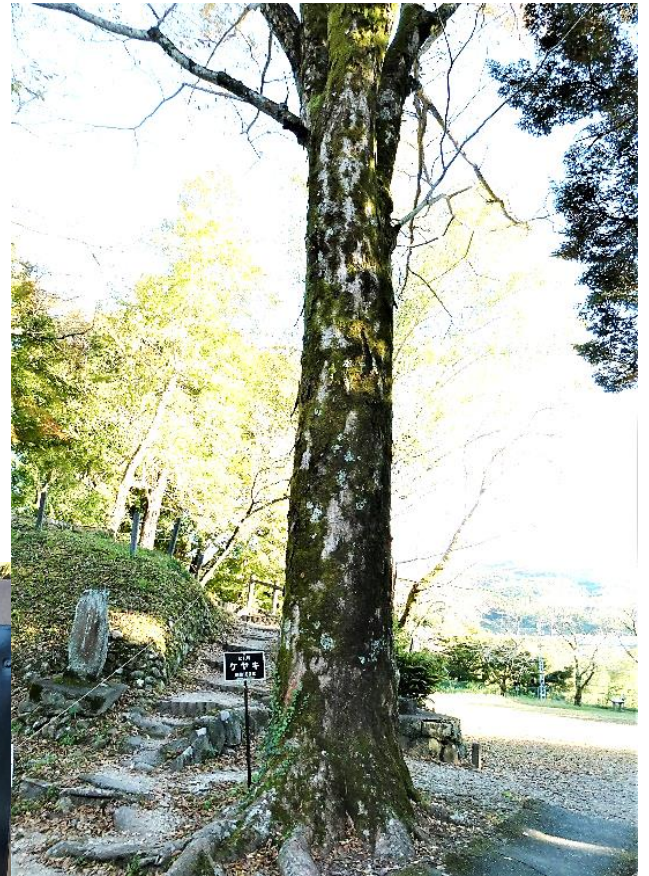
内堀跡



本丸跡



ケヤキ



**要害の長篠城**

**要害（ようしょう）**  
 長篠の地は豊川をさかのぼって約二五km、長野県、静岡県北部に通じる道中にあり、このあたりから平地は山に移っていく。江戸時代の豊川舟運も長篠城を越えるところで終点になる。  
 戦国時代、武田軍と徳川軍がこの城を奪いあつたいわゆる境目の城であつた。

**要害（ようがい）**  
 長篠城の南面は宇連川、西は豊川、ともに五〇mの断崖である。なお本丸の西北は矢沢の険しい谷である。平地への面を水堀と土居、そして外郭は櫓又は屏で囲んだ。平地へ移ってきてもできるだけ天険を利用した戦国末期の典型的な築城である。

**土居と堀（どいとほり）**  
 この正面に見えるのは、本丸の土居と堀で天正三年の姿を残している。右手に門と土橋があり、続いて土居と堀が伸びていたが江戸時代に崩れられて今はない。堀の土はかき上げられて土居にした。堀には水を引き入れた。土居と堀は直線に進まず直線に近い出入りがある。この形はやがて近世の城郭へ移り変わる姿を見せている。

国指定史跡【長篠城址】

- \* 城址の全域にわたり、こわしたり傷つけたりすると罰せられます。文化財を大切にいたしましょう。
- \* ゴミや汚蔑など、必ず持ち帰って下さい。特に引率者は十分な御指導をお願いします。
- \* 参観、見学以外の目的で城址をご利用の際は、城址史跡保存館の許可を得て下さい。

さかさ鍬

